

表記に際して

- ・ 行替は「」で示した。また平出はそのまま、闕字は一字アキで示した。
- ・ 本文に適宜、句読点、並列点を施し、理解の便を図った。
- ・ 字体はそのままにしたが、異体字については常用漢字に改めたものもある。
- ・ 変体仮名はそのままとし、読みをルビで示した。
- ・ 田中による注記は()で示した。

○別所家文書「宝曆四戊 御用留」四月二十五日 触(抄出)

大政所

1

大(往)還筋者勿論、田地中ニ猥りニ「墳墓を建、墓守与名付、傍ニ小屋」作り
ヲも致、何之謂茂無之ニ、自然与「草庵之古とく相成候義(儀、以下同じ)、爰
彼所々」相聴候。右様之義、堅向後停止ニ「可仕候。墓所之儀、古来より有旧
候」土地之外、曾而不相成義与心得候様ニ「夫々江可申渡候。且又辺路道志
への」石碑(碑)之片者らニ願無して新法ニ「石佛を建置候事とも、是又無用
ニ」候。屋敷構之内者、墓所之義ハ勝「手次第たるべく候。」

但五年已来右鉢之義有之「場所、早々詮義い多し、書付指」出可申候。

○「源穆様御代御令條之内書抜」宝曆四年三月二十四日条

三月廿四日

一 往還筋ハ勿論、田地中ニ猥ニカキアゲ墓ヲ建、墓守」と名付、傍ニ小屋
作りをも致シ、何之謂も無之ニ、自然と草庵之如相成候義(儀、以下同じ)、

爰彼ニ相聞江候。「右様之義、向後堅停止ニ可仕候。墓所之義、古」来方旧
在之候土地之外、曾而不相成候義と相「心得候様ニ夫々江可申渡候。且又邊
路道志る」べ之石碑之傍ニ願出も無之新法ニ石佛ヲ建「置候事とも、是又無
用ニ候。屋敷構之内江墓」所之義ハ勝手次第た累遍く事

○別所家文書「宝曆四戊 御用留」戊春郷中江申渡之覚

戊春郷中江申渡之覚

兼而從

公儀被 仰出候御法度之條々不申及、「御国法之義、弥以堅相守、心得違」無
之様ニ可仕候。別而切支丹宗門「帳入念相改、帳面無油断、不違時節」相納可
申候。夫ニ付、往来修行者「宿ヲ」頼候ハ、生国宗門聞届、胡乱ケ間敷義「
在之候ハ、遂詮義可申出候。」

附り。遍路修行者往来手形等「致所持在之候ハ、行掛り相煩」歩行
も難成、難義鉢ニ相見へ「候ハ、其所ニ而為致養生、病鉢」軽ク成
り候ハ、村送りニ順達可致「段、毎事申渡候得共、村ニ方重キ」病
人送り遣候儀相聞、痛敷「事ニ候間、ケ様之義ハ不便ヲ」掛痛り遣可
申候。」

一 當年之麦作之義ハ、冬蒔付之時節方「天氣合ニ指支、當春も雨繁候ニ付」大
豆も無甲斐事ニ而、別而小百姓ともハ「糧乏敷可相成候。然ル共、麦作不熟
之」儀ハ、自分ク之怠り与ハ違、天氣合不「順之義可致様無之候。此上精力
を励、」第一之秋作ヲ、無油断様之心配リ肝要ニ候「

一 上納物之義、村役人共方前廣ニ取立、時ニ「段指支無之様ニ、兼而氣配り第
一二候。」就夫、村役人正道ニ申付ヲ相背、不屈之「族出来、我俣を百姓共
於在之者、早々」郷会所江可申出候。若又村役人方百姓共へ「不正之儀も申
聴有之候ハ、其段百姓共方」大政所共江可申出候。理非ヲ糺御仕置「可申
付候。」

一 五ヶ年以前午年(寛延三年)方御借免頂戴致罷「在之百姓共ハ、別而難有奉

2

存、地面」相直り候義、無余念心懸可申之処、今以」其驗不相聽候ニ付、去秋已來重キ願」申上、當年方來卯年迄、今六ケ年之」内御借來り之通、御免御借被成候。如此」御上方莫大之御救方、年ヲ累被」

仰付候義、百姓共冥加之程ヲも奉存、」當年より卯年迄之内、毎歲御貸免之」内、返上之義可申出候。此儀ハ惣而百姓」共之申合二者不及。右申通冥加ヲ「茂」奉存、拔々ニ追々返上之義可申出候。

一 百姓共平常身持之義、随分質素ニ」作方出精仕、奢無之様ニ相慎義專ら」可心掛候。依之、行義作法之義ハ、兼而」申渡候通、別而去年七月書付ヲ以申」渡候趣、堅相守可申候。此上心得違之」者有之候ハ、大政所共江村役人申出、大政所方其名前、支配御代官所江」可申出候。

一 婚禮之節、身上不相應之花美ヲ」好候様ニ相聞候故、饗應之仕方献立」等ニ至迄、前方逐一書付ヲ以申渡候處」或ハ躰折方古來於郷中不致」儀ヲ様々取膳ひ、相聽候故、諸道具」為致見分、役人指出、支度之品ヲ茂」見改候得共、外見一ト通ニ而、内證ニ而ハ」不相應之奢ヲ相用候。此義近來之風」俗与申なら王し候義、全ク百姓共無益」成ル心得違与申物ニ候。御捷之趣堅」相守、惣而、奢ケ間敷義無之様ニ相」慎可申候。

一 鉄炮持、致徘徊候義者、兼而重キ」御法度ニ候所、不心得之惡黨者有之、」既ニ當正月十三日西植田村、二月廿六日」於三本松村も、鉄炮持候者ヲ、鳥見之」もの目附追駈候所、鉄炮者捨置キ、」逃去り候。召捕候上者、助命難成御」科ニ候間、兼而左様相心得、村内吟味合」可申候。

一 池々浪指ニ作物仕付候義、池水溜り」障りニ罷成候故、兼而申渡候通、御法度ニ候」所、端々致仕付候者有之様ニ相聞候。」此義ハ、村役人より見改、急度指留候様可」致候。若其百姓承引不致、植付仕候者」有之候ハ、其段可申出候。水溜り之義、油断」仕間敷候。不沙汰之処有之候ハ、池守ハ」不及申、村役人越度ニ可申付候。

一 大川筋又者小川流(みぞ)々々ニ而も、切込之」所江、百姓共無訴、我俣竹木植候義ハ、」在之間敷事ニ候段、常々申渡せ候所、」所々ニ寄、右之仕形相見ハ

候。竹木植候義ハ、」畢竟其処之地主之勝手ノミニ而、水」満水在之節者、植物ニせ(塞)か連、大ニ川」筋之田地之害ニ相成候間、件之類江」植物有之候得者、村役人方早々伐払」可申候。若不取計之村方も於有之ハ、」可為越度事ニ候。

附り。川長之堤、土地ニより堤之」裏表ニ小竹・川柳等之類、御普」請方方植せ候義ハ、堤之困ニ而、」満水之防ニ成候。ケ条之場所ニ」枯木相見へ候ハ、無油断植更、」随分堤之手便りニ成り候様ニ」村役人共平常可出掛候。

一 櫓楮之類村有候村方、弥育申様ニ可」仕候。生立候而者、其益百姓為ニも相成ル」事ニ候。委細者先達而申觸候通ニ候。

一 引合勘定之義并本勘定共、相定候」時節無滞仕上可申候。兼而申渡候通、」引合未進辻ヲ元ニ立、老人切之末」進高相究、前廣ニ詮義仕、相納」可申候。其上ニ而、納り方不埒ニ候者、急」度詮義之上御仕置可有之候。全躰」賣不足ニ成候迄取續せ置候義、政所」・組頭甚々不念ニ成候段者、年々申渡置候」得共、其取計無之様ニ相見候。無是非」絶人ニ相成、村内取引纏事申出等も」相聞候。此段ハ油断不仕、公物重負り」不申内、前方ニ氣ヲ付申義第一ニ候。御収」納之義ニ付、本人者不申及、村役人共不埒」在之候而者、御咎重ク懸り候間、其旨ヲ」奉存、油断仕間敷候。六月勘定ニ指」臨ミ、毛頭願間敷義者、古來方無之儀ヲ」第一ニ可相守候。

一 當時御普請方御中間共計ニ而、人足」遣方無用ニ候段者、去冬被 仰付通り候。」然ル共、所々ニ方少々難捨置場所、又者」急成ル事出来之普請ハ、人足も」懸可申候間、其節者、割之通、無滞」人足出シ可申候。尤件之節ハ、大政所」・村役人共罷出、其場所見計手配可致候。」就夫、前々方村々出入足之内不精之働」ニ而かさ川ヲ申、我俣成義在之様ニ相」聞候。諸御用ニ出候而、右之次第第二而者、」不相濟事ニ候。勿論於御普請所ニ、」右様之族者、外勵之障り候得者、撰ニ」出シ、急度可申付候間、此段端々之者」迄も兼而申渡可置候。勿論風雨洪水之」節者不申及、早速人足召連罷出防可」申候。油

断仕候^て而大破、田地流候時ハ、「御為ニも不宜、百姓共も元ヲ失ひ候間、」急変之時分ハ罷出、手配り專要ニ候。村内取計仕方、能其印相見候得者、^は相應ニ御褒美ヲも被下候間、其旨^ニ兼而^て村内江可申聽置候。

一往來道橋断絶無之様ニ村役人^一取計可申候。并往還道松所々、御田地江^一切込、自然与^と倒候様ニ及見候間、村役人^一共出合、古來之通道幅を改并道松^一附候。田地江入候儀在之處ハ、古來之通^一直せ、若違乱之義在之候ハ、早々其段^一郷会所江可申出候。且又池々堤損シ、川井手堀浚ニ至迄、小破之節断出^一修覆可致候。

但揺木(ゆるぎ)・榎木等損出、仕替願^一出候分者、九月ヲ限り可申出候。此義ハ前々申渡在之事ニ候。

一博奕并賭之諸勝負者、重キ御法^一度ニ候所、未端々右様之仕業も有之^一様相^一聞候間、大政所納方手代随分^一氣ヲ付、心掛り之義も有之候ハ、たとへ^一帯刀之家多^たり共、早速踏込、急度^一詮義可仕候。郡ニ^{より}右之仕業、密々ニ^一興行有之村方も有之候ニ付、起^きヲ入レ^一内々立聞せ候。其外不寄何事志シ^一悪敷者者、重キ御仕置申付儀ニ候間、別而年若者共、此旨を相慎、召仕候^一下人共江も入念可申付候。

一寺院より郷中相對勸化(かんげ)願相^一濟、被^一仰付候義ハ格別。其外内證ニ^一而^一取扱候諸勸進奉加、前々之通御法度ニ^一候之間、相對ヲ以遣候儀ハ格別。百姓共^一承引無之儀ヲ、村割ニ仕候義無之様ニ^一可仕候。尤諸割方之儀、百姓共へも委^一細書付ヲ以申聽せ、得心為致可申候。此^一儀ニ不限、惣而、無法之割方割掛等^一致候者、大政所以下急度可申付候。

一訴訟出入之義、大政所・小政所取誘^一ニ而可相濟義者、無油断訳付可遣候。大政^一所了簡ニ不能義ハ、兼而申渡候通、次第ヲ^一以テ可申出候。右出入之義ニ付、投文致候^一者も近頃在之候。村役人共私曲有之、^一百姓之為ニも不宜候者、其段直々密々^一可申出候。明白ニ遂吟味遣可申候。然ル^一処、名ヲ隱し、偽ニ而自分之讎ヲ以、何^一者とも不知、悪口而己之義申出候投文^一近頃数多相見候。名ヲ出不申投文者、^一先年も申渡候通、封ヲ不開焼捨申^一事

ニ候。無益之義ニ付、無據投文仕候ハ、^一名ヲ出シ可指出候。

一御馬屋ヲ初、御家中入草、其外相^一定候入方之義、随分無油断指支不申^一様ニ村役人可申合候。

右之趣、小百姓・間人(もうど)ニ至迄、入念可申渡候。